

# 原油市場展望

2022年5月



調査部 マクロ経済研究センター

<https://www.jri.co.jp/report/medium/oil/>

◆本資料は2022年4月27日時点で利用可能な情報をもとに作成しています。

◆ご照会先：調査部 副主任研究員 松田健太郎 (Tel:080-4176-4439 Mail: matsuda.kentaro@jri.co.jp)

- ◆日本総研・調査部の「経済・政策情報メールマガジン」は下記URLから登録できます(右側QRコードからもアクセスできます)。新着レポートの概要のほか、最新の経済指標・イベントなどに対するコメントや研究員のコラムなどを随時お届け致します。  
<https://www.jri.co.jp/company/business/research/mailmagazine/form/>

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。

<メルマガ> <Twitter>



# 原油価格見通し：高値圏で振れの大きい展開

## ◆現状：100ドルを挟んで一進一退

4月のWTI原油先物価格は、上旬に、IEAが追加の石油備蓄を放出する方針を示したことや、新型コロナの感染再拡大を受けた中国の一部都市の封鎖が長期化したことなどから、90ドル前半へ下落。

月半ばにかけて、EUがロシア産原油の禁輸措置に踏み切ることへの懸念が高まったことなどを背景に一時110ドル付近へ上昇。その後は、IMF（国際通貨基金）が世界経済見通しを下方修正したことを受けて原油需要の減退懸念が強まり、100ドル前後へ反落。

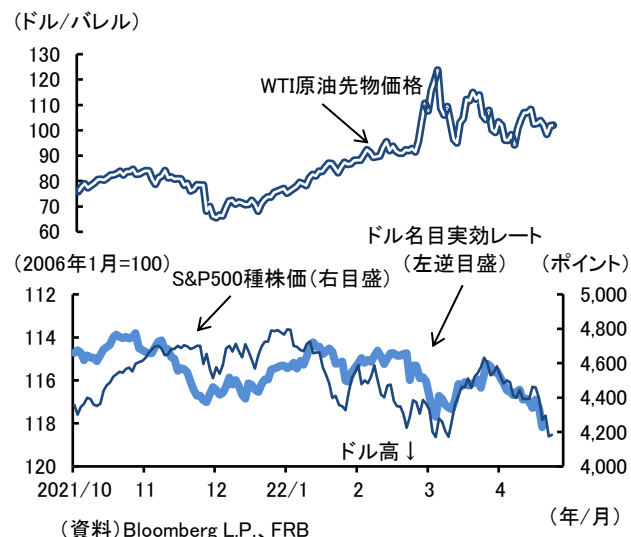
## ◆投機筋の買い越し幅は横ばい

投機筋の原油先物の買い越し幅は横ばい圏で推移。買い・売りポジション双方ともに小動き。

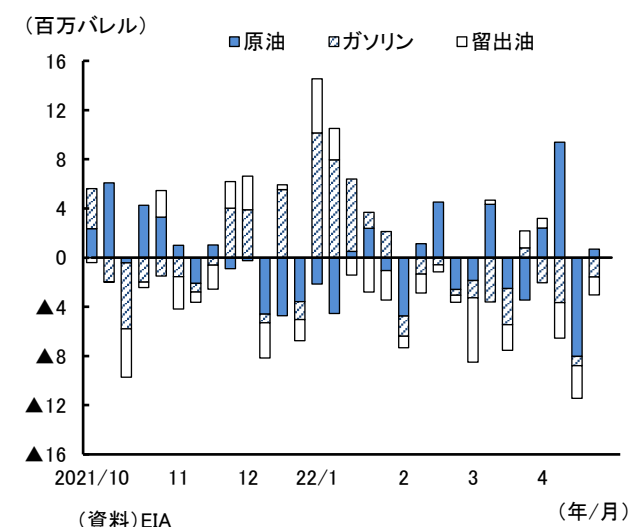
## ◆見通し：高値圏でボラティルな展開

先行きを展望すると、原油価格は高値圏で上下に振れやすい展開が続く見込み。OPECプラスや米国のシェールオイルの増産ペースが緩やかにとどまるなか、ロシアからの原油供給を巡る思惑に左右されやすい地合いが続く見通し。

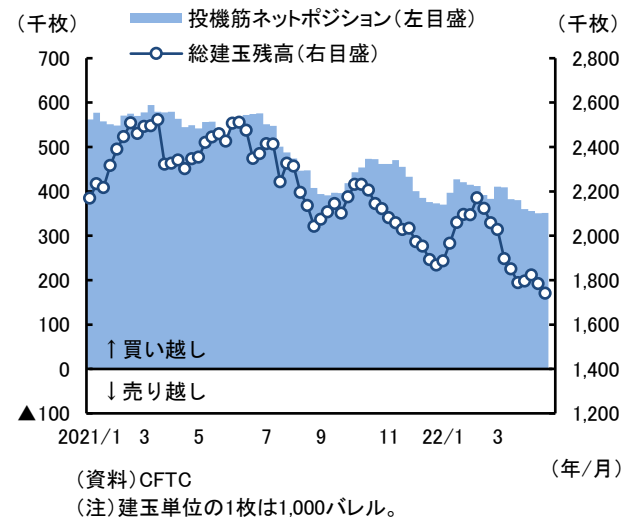
原油価格と株価・為替レート



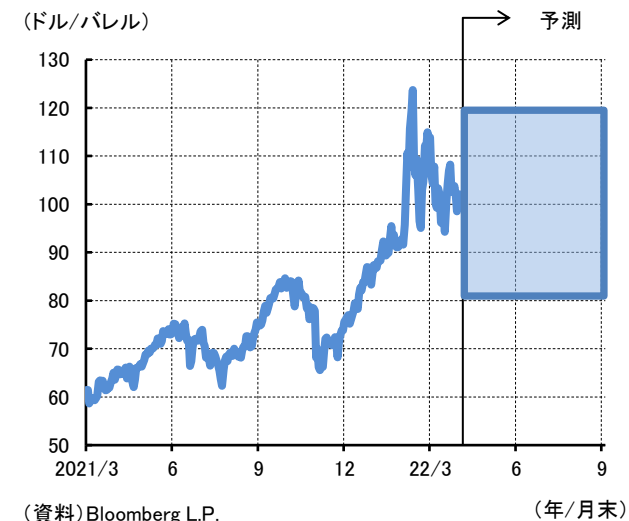
米国の原油・石油製品在庫(前週差)



WTI原油先物ポジション



WTI原油先物価格見通し



# トピック：操業コスト上昇が米シェールオイル増産の重石に

原油

## ◆リグ稼働数の増加は限定的

米国では、原油価格が100ドル前後で推移するなかでも、石油リグ稼働数の増加ペースは緩やか。20年8月を底に増加しているものの、足元でも新型コロナ感染拡大前を下回る水準。

この背景として、以下2点を通じた操業コストの上昇が指摘可能。

第1に、人手不足。20年に大きく上昇した鉱業の失業率は、足元にかけてコロナ前の水準近くまで低下。幅広い業種で労働者が不足するなか、他業種からの鉱業分野への人材流入は限定的。

第2に、資材やサービスなどのひっ迫。原油の上流開発投資に関連する掘削サービスや機械、資材などの価格は総じて上昇。ロシアのウクライナ侵攻に伴い世界的に資材価格が高騰しているほか、掘削サービス会社などは値上げ姿勢を強めている状況。

## ◆当面の生産拡大は緩やかに

このような制約の下、掘削を大幅に増加させるために必要な原油価格は90ドル近くへ切り上がり。増産投資の妙味が薄れつつあり、積極的な事業拡大は行いにくい状況。

当面を展望しても、これらの制約の早期解消が見込めないため、米国シェールオイルの生産拡大は限定的となる見込み。

## 原油価格と米国の石油掘削設備(リグ)稼働数



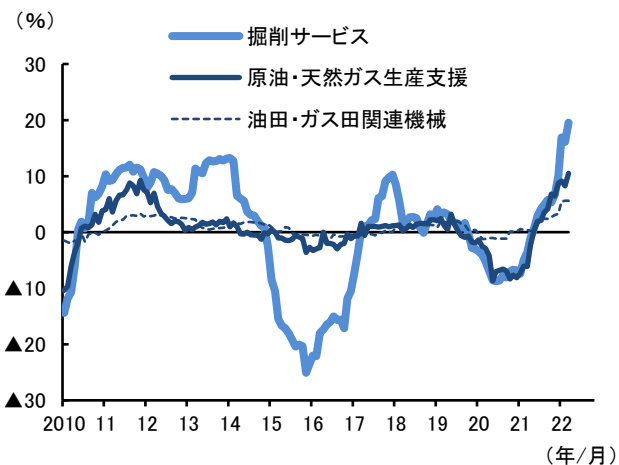
(資料)Bloomberg L.P.、Baker Hughes

## 米国鉱業の失業率と賃金(3カ月平均)



(資料)BLSを基に日本総研作成

## 米国の原油生産関連物価指数(前年比)



(資料)Bureau of Labor Statistics

## 掘削の大幅増加に必要な原油価格

